

お盆／盂蘭盆（うらぼん）の略

旧暦7月15日を中心に、先祖の霊があのかから戻ってきて、再び帰っていくという日本古来の信仰と仏教が結びついた、先祖の冥福を祈る行事。

*

ご先祖様の魂が本当に帰ってくるかどうかは、よくわかりませんが大切なことは、亡くなった方の思い出を語り、記憶をつなげていくことが、冥福を祈ることになり、私たちの生き方や暮らし方に指針を与えてくれるのではないのでしょうか。

*起源は？

盂蘭盆とはサンスクリット語でウラバンナ（逆さ吊りのような苦しみ）からきています。

仏教行事としては、紀元606（推古天皇の頃）に各寺院で始まりました。

宮廷で始まり、その後、僧侶・貴族・武家などで行われ、一般庶民に広まったのは江戸時代になってから。

もともと日本人が持っていた「先祖を供養する心」がお盆行事を受け継いでいるようです。

*いつ行いますか？

旧暦時代は7月15日を中心に。新暦時代は地域によって、いろいろです。

関東など／7月13～15日 関西など／8月13～15日（旧盆）

近くに先祖のお墓がある場合、昼間に掃除、お参りをしておく。

13日の夕方に迎え火。門前でオガラ（麻の茎）をたく。「お盆の入り」

16日の夕方に送り火。また、オガラをたく。地域によっては16日の早朝に。「お盆の明け」

14日、15日

お経、お祈りや、飲食などの供養をします。お供えの食事は毎日とりかえましょう。

盆踊りは、故人の霊を迎え、慰め、そして冥土に送り帰すための踊りが始まりだったようです。

*お盆の飾り付け

各家、地域、宗派によって異なるようです。興味のある方はお調べください。

仏壇の中にはご本尊様、お水、ご飯をお供えし、花を飾ります。

お盆の時には故人の位牌を正面の前面に出します。

または、仏壇の前に精霊棚（盆棚）を作り棚の奥中央に故人の位牌を安置し、脇に盆提灯を置く。

台の上にはお供え物、ナスとキュウリの精霊馬（しょうりょうま）、お食事などを並べます。

果物、野菜、そうめん、お菓子など。また、故人の好きだったものなど。

* 色々な形式も大事ですが、それよりも心をこめて供養することが何よりだと思います。